



こう

しょう

じ

ほう

興照寺報



平成25年2月
50号

発行 浄土真宗 興 照 寺
〒890-0045 鹿児島市武一丁目25番12号
電話 099-254-3269 (代)FAX 099-254-0303

一面 母の字
二面 凡夫の私が仏になるふしぎ
三面 秋季永代経・報恩講のお話
四面 諸案内・門徒会費のお願い等

親鸞聖人が書かれた母の字

母の字

上の写真の字は親鸞聖人が書かれた国宝になつてゐる三帖和讃の中『高僧和讃』(善導讃)にある「釈迦弥陀は慈悲の父母」より写しました。普通”はは”と言う字は母と書く訳ですが聖人は上の様に書かれています。文字をお分かりでなかつたとは考えられず、母の字の中をわざわざ子と書かれたそこには大きな意味があるようと思われます。

先日グアムで痛ましい悲惨な事件が起きました。暴漢に襲われようとするわが子を庇い、お母さんとお祖母さんが命を落とされました。その事件を聞いた時に頭にこの字が浮かびました。わが子を守ろうと必死に子供に覆いかぶさる母親の姿と、子という文字をしつかりと包み込み守るかのように見えるこの字が重なつて見えたのです。

阿弥陀様の事を親様と言つたりします。仏様は我々の事を一人子のように慈しみを持つて守つていてくださいます。その事を子供である我々もしっかりと受け取り、報恩謝徳の思いを益々強くし、お念佛を称えていかねばならないと 思います。

＊凡夫の私が 仏になるふしげ＊

浄土真宗の信仰の中心は聞法にあります。お念佛のお謂れを聞かせていただき、この私が仏となる身であることを知らしめていただく、聞くことにはじまり、聞くことに終わる、と言つてもいいでしょう。では、何をどの様に聞くのでしょうか？たつた二つのことを徹底的に聞いたらいよいのです。それは、

一、私のこころ です。

まず、私のこころを聞くとは、

真実の自分の姿に気付かせていただくことです。真宗では、自分の本当の姿は罪深くして、限り無い昔から迷いの世界をさまよう愚か者であると深く信じる「機の深信」を説いてきました。親鸞聖人におかれています。

かれては罪悪深重で無慚無愧の煩

が為なりけり、ひとえに親鸞一人を説いてきました。親鸞聖人にお

もちける身にてありけるを、助け

ます。たとえ耳に痛いことでも、大切な私についての真実であれば、あえて聞かねばいけません。



次に、仏のこころを聞くとは、阿弥陀仏の本願に出会わせていただくことです。本願とは、誓願とも言い、「どんなことがあつてもあなたを見捨てることは無い、必ず救い取る」という攝取不捨の誓

いであり、阿弥陀仏は計り知れない時間考え方苦労なされて、それを成就なされ仏となられた如来であります。真宗では、その本願を深く信じる「法の深信」を説いてきました。親鸞聖人におかれ

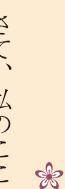
ては「弥陀の五劫思惟の願をよく

よく案すれば、ひとえに親鸞一人

左の絵は妙好人と呼ばれた浅原

惣具足の凡夫であり、どのような行もおよびがたき身でそれゆえに、地獄に堕ちて行くしかしかたない

んと思し召したちける本願のかたじけなさよ」と本願との出会いを歓ばれています。



さて、私のこころは「墮ちる機」仏のこころは「助ける法」、墮ちる私が助かる私、何か矛盾を含んでいるようですが、ここに

真宗のお教えお念佛という仏のお手回しがあります。「南無阿弥陀

仏」を親鸞聖人は「南無」にヨリ

タノメ、ヨリカカレといただかれ

マカセヨと、「阿弥陀仏」に必ず

スクウとの勅命であると受け取ら

れ、本願の目当てが他ではなくこ

の私であり、自らはからいを捨て

てて弥陀にすべてまかせまいらす

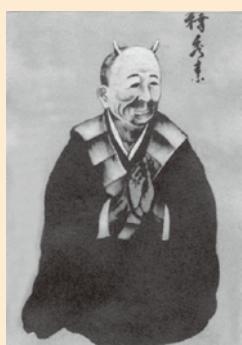
ことによつて、お恥ずかしいこと

であります。が、が、そのまんま有

難いことあります「法機一体」

の他力のご信心といただかれるの

門徒式章が新しくなりました。
(一本二三〇〇円) 法要の際などにお掛け下さい。



才市さんの肖像画です。自分の顔に角を描かせてお念佛をいたしかける「法機一体」の姿として貴いものです。



二月十四日に本堂、納骨堂の蛍

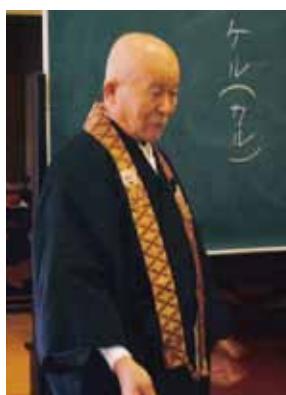
光灯の多くをLEDに換えました。
明るさが少し増したようです。

秋季永代經法要

講師 永壽 厚信 先生

私たちには不思議と人間に生まれてきました。それも泣きながら生まれてきました。万歳を叫んで生まれてきた人はだれもいません。家族は諸手を挙げて喜んだでしょうが、本人は泣きながら生まれてきました。予感的中、生涯は苦の世界、どんな人もみんな四苦八苦の世界です。しかも生と死は裏表いつ表が裏に変わるかわからぬ常の中で人間は生きていかなければなりません。決定した死に向かつた人生なのになぜ生まれた時に祝福するのでしょうか。それは、多くの苦が決して無駄ではなく、きつと慶びを見い出せるということで初めて慶びを引き寄せて言つているのです。

人間に生まれた一番の目的は「迷いの凡夫である私を知らせてもらうこと（迷いの解決）」です。「諸行無常・諸法無我」すべてのものは変わっていくのに変わらないと思うのが迷いであります。その迷いの中にいるわが身を阿弥陀如来様が知らせてくださる。如来様とはどんなお方か。



「親鸞聖人「一念多念証文」より」

きました。予感的中、生涯は苦の世界、どんな人もみんな四苦八苦の世界です。しかも生と死は裏表いつ表が裏に変わるかわからない無常の中で人間は生きていかなければなりません。決定した死に向かつた人生なのになぜ生まれた時に祝福するのでしょうか。それは多くの苦が決して無駄ではなく、きつと慶びを見い出せるということで初めに慶びを引き寄せて言つて いるのです。

平成二十四年は親鸞聖人がお淨土に還られて七百五十回忌の法要の年でした。今と違い不自由な時代に九十年のご生涯を常に「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案すれば、ひとえに親鸞一人がためなり」と頭が下がつていかれた方が聖人です。「頭が下がる」と「頭を下げる」一字の違いですが大きな違ひがあります。報恩講のお勤めの終わりに「如來大悲の恩徳は身を粉にしても報ずべし 師衆知識も恩徳も骨を碎きても謝すべし」と言う『恩徳讃』を読まれましたのが、この“も”的字には：“として”見えも“と言ふ大きな意味があります。

もうすぐ正月が近づきます、多くの方が帰つてこられると思います。しかし、よく親が亡くなれば帰りづらくなると聞きます。楽しい旅行や里帰りも帰る処があり、待つてくれる人がいればこそです。皆さんはお宅には阿弥陀様が待つていて下さいます。真宗は下がらない頭が下がる宗教です。せつか帰つてこられた子供さんたちに「頭を下げてこい」と強制するのではなく、「ただ今戻りましたと報告してきなさい。」言つたらどう



(伝、一遍)

報恩講法要

春季被岸法要のご案内

三月	午前 十時より	午後 二時より
十七日(日)	○	
十八日(月)	○	
十九日(火)	吹上	
二十日(水) お中日	○	吹上
	○	

春季永代経法要のご案内

(○の日時にあります)
・講師 筑波 英道先生 (山口県)

期日	四月	二十日(土)	二十一日(日)
時間	朝席	十時より	二時より
講師	筑波 黒田	了智先生	(熊本県)

※永代経の志納をおあげになりたい方は遅くとも四月十日までに寺へご相談ください。是非この機会におあげください。
(永代経志納のお勧めは二十一日の昼席に行います)

※永代経をあげておられなくともどなたでも参加できます。せつかくのご法縁です。ご聴聞ください。

納骨堂管理費のお願い

金額 年額 一万円
振込用紙に門徒会費・管理費の合計の金額が記入されていますので、門徒会費の納入方法と同じ要領でお願いいたします。

門徒会費のお願い

花祭り

四月七日(日) 時間 十一時より
場所 興照寺本堂
和順会総会も合わせて行います

*余興参加者

踊り・カラオケ・詩吟・楽器演奏等の参加者を募集します。

花祭り関係諸募集

ふるってご参加ください。

*帰敬式参加者

帰敬式とは法名を受ける式です。

*余興参加者

法名は本来生前に受けるものですが、当寺では、花祭りの際に行っています。

花祭り関係諸募集

是非この機会にお受けください。

花祭り関係諸募集

帰敬式の受式希望の方、余興参加希望の方は、二月三十一日までにご連絡ください。

お盆参りについてお願い

お盆のお参りについて、門徒会費の振込用紙を利用して皆様のご希望をお伺いいたしました。

詳しくは同封別紙をお読みください。

納骨堂募集集



古い納骨壇にも空きが出来ました。
ご希望の方が居られましたらご連絡ください。

あ)と)が)き)

寺報が今回五十号になりました。

平成八年九月に一号を出して以来、年三回の発行で十七年になります。

その間の事が短くも、また長くも感じられます。第一号はその年の一月

に還帰した前任の追悼記事でした。

爾来多くのお寺や周辺の出来事を伝えてきました。蓮如上人五百回遠忌

寺号公称五十年・新館新納骨堂建設法要、前坊守の還帰、親鸞聖人七百

五十回遠忌・開基五十回忌法要等々、三十号からは紙面もカラーになり、見易くなつたのではないかでしょう。

これからも多くの事をお伝えしています。

さういふと思いますが、皆様のご参加ご協力を紙面に活かせたらなと思つています。

訃報

総代 鳥丸亮一氏が二月に亡くなりました。